

森の世話人

フォレスター松寿

10年の歩み



活動開始間もない2010年1月16日の作業風景（作業するのは篠島益夫さんと大西孝親さん）

フォレスター松寿 10周年を迎えるにあたって

代表世話役 蓮井 滋

この度、当活動も早いもので10年の節目を迎えることとなりました。

大きな事故もなく無事に活動を継続できたことを、まずみなさんと一緒に喜びたいと思います。

この間、ご支援・ご指導・ご協力を賜った各方面の皆様には、この場をお借りして深く感謝する次第です。

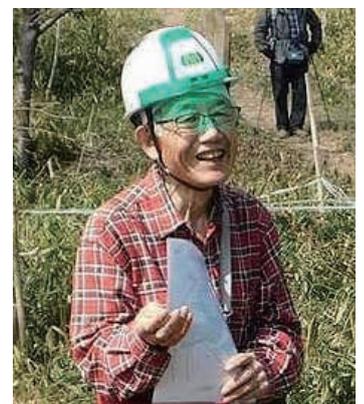
思い起こせば2009年12月、僅かな踏み跡を頼りに中谷さんが持参の小型シャベルを使って作ったステップを頼りに、滑りながらもやっとの思いでたどり着いたところが現在の中部休憩地でした。そんな中で、六甲砂防事務所からお借りした鎌と刈り込み鋏で背丈を超えるネザサや雑木との人力による格闘が始まりました。

翌年3月に支給いただいた小型苗を初めて植樹したのですが、雑草の伸びは凄まじくて7月になると苗木を覆い尽くし、雑草をかき分けて苗木を探す始末でした。下草刈りに追われる中、窮状を聞きつけて小川さんが自宅の刈り払い機を持参して参加してくださいました。以後、徐々に自前の刈り払い機を増やすことが出来て、広い範囲の下草刈りが出来るようになり現在に至っております。

植樹活動は20年から30年に渡る長いスパンの活動ですので、篠島初代表世話役による基礎固めのあとを継いだ高田第二代代表世話役により、活動参加者の増加と次世代につなぐ人材の獲得をめざし松寿会・松愛会から近隣の学校や地元の方々に窓口を広げていただきました。会員各位の努力により常時20数名前後の方々が参加していただけるようになりました。

活動中も受託地内の「魚屋道尾根筋」を歩くハイカーの姿を見かけることが増えてきました。活動地がコブシ・サクラ・ツツジ・ヤマボウシ…モミジと四季折々の花を楽しめる「憩いの広場」に成ることを楽しみにして、活動を進めてまいります。

これからも引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



フォレスター松寿の成り立ち

パナソニック株式会社 OB 会「パナソニック電工松寿会阪神地区」の有志が2009年10月に組織を立ち上げ活動を開始しました。

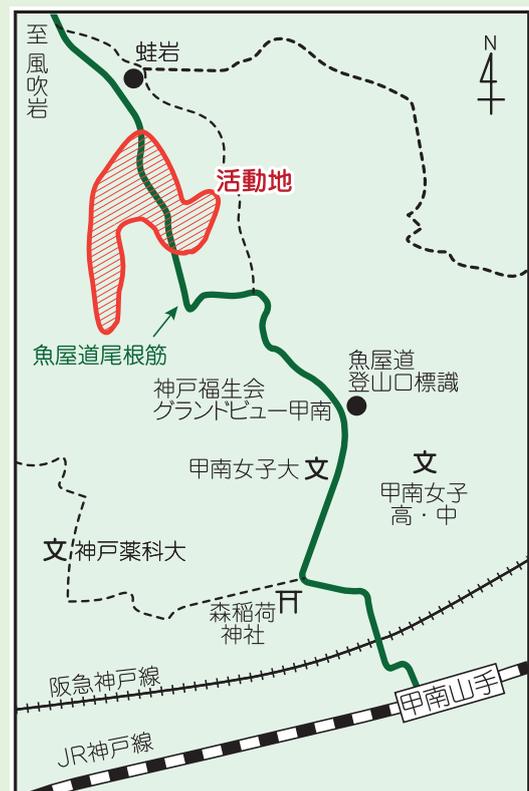
国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所の進める「六甲山系グリーンベルト整備事業」の「森の世話人」として登録。防災に役立ち且つ地元市民の憩いの場ともなる「松寿の森」づくりを目指しています。

活動地は神戸市東灘区にある甲南女子大学の山手、ハイキングコースとして知られた魚屋道（ととやみち）尾根筋を20分ほど登った所です。

現在では地元住民の方々や近隣の高校・大学からもご参加をいただき、会員数は44名となっています。

植樹会やお花見ハイキングのオープンイベントも実施し、地元を始め各方面に広くご参加を募っています。

なお当会は、パナソニック電工松寿会、パナソニック エコリレー ジャパン、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会、神戸市東灘区社会福祉協議会、ほくら〜ととや森の世話人倶楽部に所属しています。



フォレスター松寿 10周年に寄せて

国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所 事務所長 田中 秀基

フォレスター松寿設立 10 周年、おめでとうございます。

また、森の世話人活動を 10 年継続していただいていることに感謝申し上げます。

平成 7 年の兵庫県南部地震を契機に六甲山系グリーンベルト整備事業が開始されましたが、この広い六甲山系を土砂災害に強い森にしていくためには、行政の力だけでは行き届かず、地域団体や企業団体等の皆様で構成される『森の世話人』の力が必須だと常々思っております。

とりわけ、フォレスター松寿の皆様におかれましては、森の世話人のベテランとしてだけでなく、トップランナーとして、他の団体の見本になっていただいていること、活動回数や参加者数も年々増加し、より活発に活動を展開されていることをとても心強く感じております。

また、各種のイベントの開催や住吉中学校への防災教育活動等を通して、地元の皆様へ土砂災害及び砂防事業への理解を広めていただいていることは、フォレスター松寿の皆様ならではの活動です。

昨年 7 月には、昭和 13 年の阪神大水害に匹敵するような激しい雨が続きましたが、人命に関わるような被害は発生しませんでした。土砂災害はその発生原因を簡単に特定できるものではありませんが、皆さまのお力をお借りして進めてきた「土砂災害に強い森」も一定の効果を発揮したものと考えております。

昨年の集中豪雨や何度も襲来した台風を考えますと、引き続き防災対策を進めていく必要があります。そのため、六甲砂防事務所では砂防堰堤や斜面对策を進めるとともに、フォレスター松寿の皆さまを始めとする森の世話人の皆さまと一緒に土砂災害に強い森づくりを進め、六甲山系に住む皆様が安心して暮らせるよう努力していく所存ですので、引き続き皆様の強力なバックアップを賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

「六甲山系グリーンベルト整備事業」とは

平成 7 年 1 月 17 日におこった兵庫県南部地震で、六甲山地では山の斜面崩壊や地割れが多数発生しました。その後の雨によってくずれた所はさらに増え、その数は 1000 ヶ所以上にも達しています。

また、地震によってゆるんだ地盤は、今後の大雨などによる土砂災害の危険性があります。このため、六甲山地を一連の樹林帯（グリーンベルト）として守り育て、土砂災害に対する安全性を高めるとともに、緑豊かな都市環境、景観などをつくり出そうという「六甲山系グリーンベルト整備事業」が開始されました。この事業は、「六甲山系グリーンベルト整備に関する懇談会」（六甲山にさまざまな形でかかわりのある学識経験者やマスコミ、経済界、地域住民などからなる）からいただいた提言をもとに定められた「六甲山系グリーンベルト整備基本方針」（平成 8 年 3 月）に添って進められています。

事業の対象区域は、神戸市須磨区鉢伏山から宝塚市岩倉山までの、六甲山系の南側斜面。

とくに、まちに直接的に土砂災害の被害をおよぼす可能性のある斜面では、積極的な整備を行います。

その一環として市街地に近い六甲山地の斜面を樹林帯として守り育て、防災機能の強化と自然豊かな生活環境を確保する「六甲山系グリーンベルト整備事業」へ「森の世話人」として市民・企業の方々の参加を進めています。

2019 年 3 月末時点で 45 の市民団体・企業が登録し活発な活動を進めています。



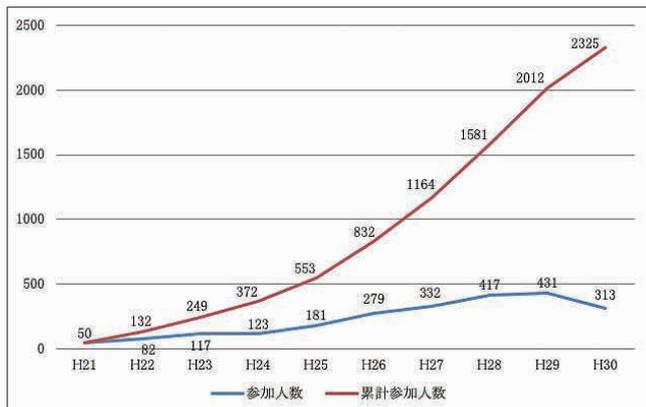
六甲砂防事務所 HP より抜粋 <http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/index.php>

数字でたどる10年の歩み

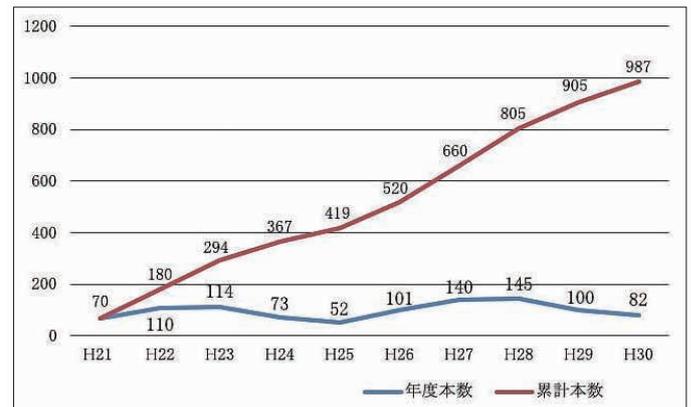
開催回数

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
活動回数(回)	4	7	8	9	10	12	13	13	15	13
累計活動回数(回)	4	11	19	28	38	50	63	76	91	104

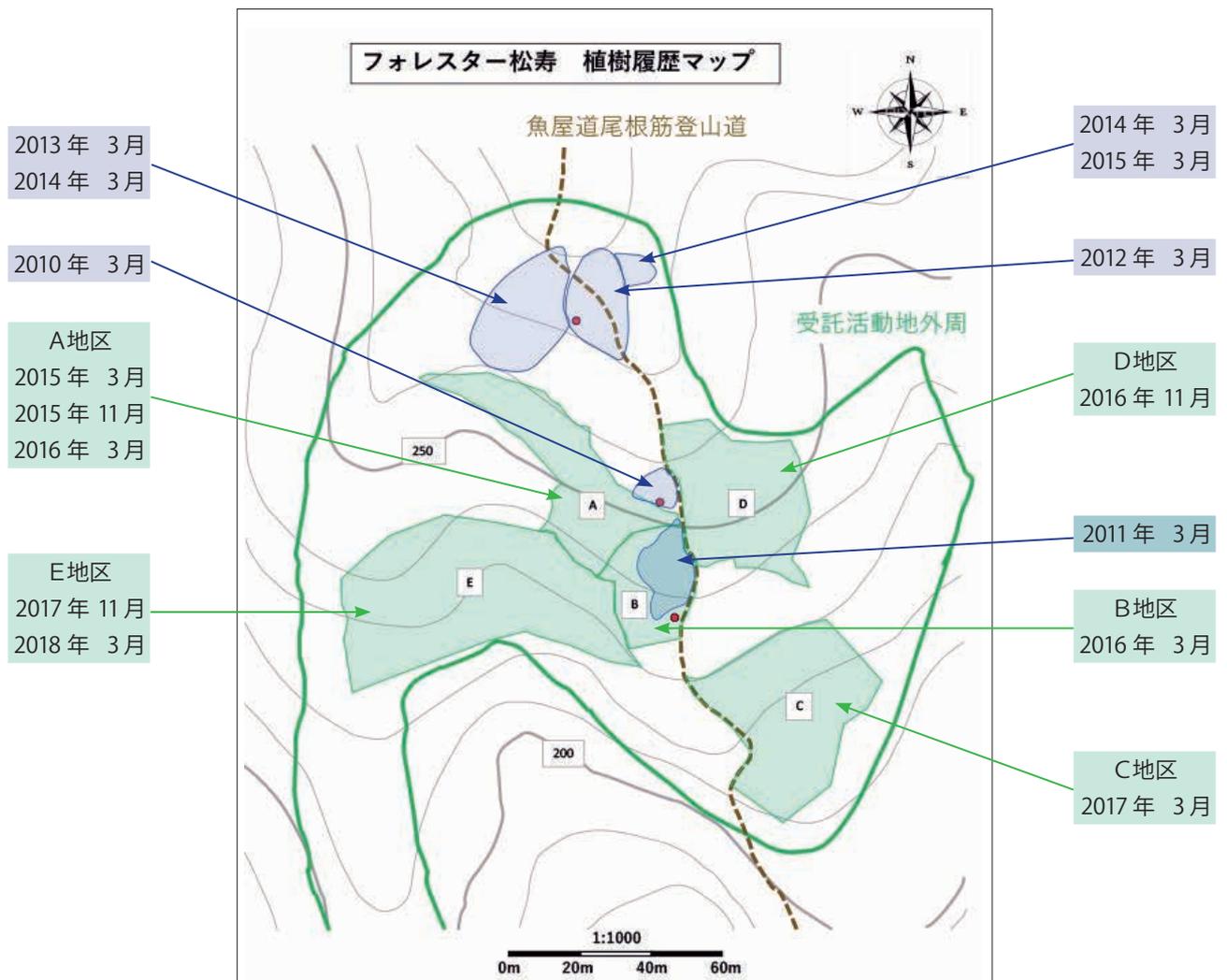
参加人数の推移



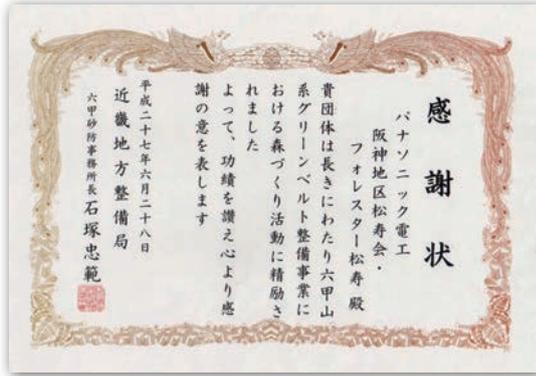
植樹本数の推移(補植を含む)



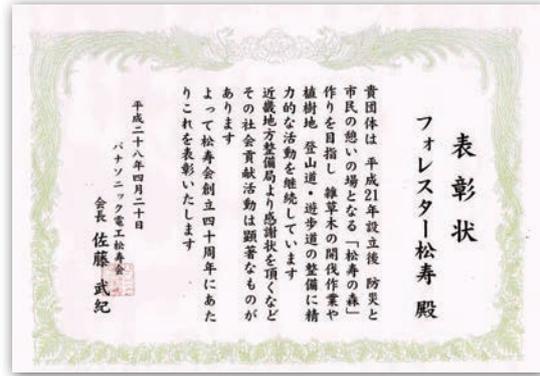
主な開伐地区と植樹履歴



表彰履歴 これまでの活動に対し各種表彰をいただきました



国交省近畿地方整備局六甲砂防事務所 感謝状
平成 27 年 6 月 28 日



パナソニック電工松寿会
平成 28 年 4 月 20 日



「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰
平成 29 年 6 月 10 日



(公財) 日本さくらの会 さくら功労者表彰
平成 30 年 4 月 11 日

役員履歴

年度	活動回数	代表世話役	副代表世話役	世話役	会計監査役
平成21年度	2009/10～	1～4	篠島 益夫	—	—
平成22年度	2010/4～	5～12	篠島 益夫	—	伊部 正尋 高田 誠一郎 中谷 良三 宮原 弘
平成23年度	2011/4～	13～20	篠島 益夫	—	伊部 正尋 高田 誠一郎 中谷 良三 宮原 弘
平成24年度	2012/4～	21～29	篠島 益夫	小川 雅由 高田 誠一郎 中谷 良三 蓮井 滋	木野村 章 島ノ江 繁吉 宮原 弘
平成25年度	2013/4～	30～39	篠島 益夫	小川 雅由 高田 誠一郎 蓮井 滋	木野村 章 島ノ江 繁吉 永井 唯晴 宮原 弘
平成26年度	2014/4～	40～50	高田 誠一郎	小川 雅由 木野村 章 蓮井 滋	篠島 益夫 島ノ江 繁吉 永井 唯晴 増谷 充啓 宮原 弘
平成27年度	2015/4～	51～63	高田 誠一郎	小川 雅由 木野村 章 蓮井 滋	市原 裕 篠島 益夫 永井 唯晴 増谷 充啓 宮原 弘
平成28年度	2016/4～	64～76	高田 誠一郎	小川 雅由 永井 唯晴 蓮井 滋	市原 裕 木野村 章 篠島 益夫 濱崎 秀俊 増谷 充啓 宮原 弘
平成29年度	2017/4～	77～91	蓮井 滋	小川 雅由 木野村 章 永井 唯晴	市原 裕 篠島 益夫 高田 誠一郎 濱崎 秀俊 増谷 充啓 三宅 義夫 吉田 恒久 宮原 弘
平成30年度	2018/4～	92～104	蓮井 滋	小川 雅由 木野村 章 永井 唯晴	市原 裕 上ノ山 悦治 木田 周三 篠島 益夫 濱崎 秀俊 増谷 充啓 三宅 義夫 吉田 恒久 宮原 弘

写真でたどる10年の歩み

2009年12月～2019年4月



① 第1回出発前ミーティング 2009/12/12 ② 神戸龍谷高校の皆さんによる下草狩り 2019/1/23 ③ 東灘高校の皆さん 2018/6/2 ④ 第1回 2009/12/12 ⑤ 第10回 2012/6/10 ⑥ 松寿会 35周年記念植樹会 2012/3/18 ⑦ 東灘ロータリークラブの皆さん 2015/3/14 ⑧ 総会風景 2018/6/2 ⑨ 活動地から南東方向の眺め ⑩ 受託地に立南西方向の眺め ⑪ 記念植樹された小柳事務局長さん(当時) 2016/11/12 ⑫ 第80回 2017/6/3 ⑬ 受託地に群生するクサイチゴの花 ⑭ ハイカーに注意喚起する作業中 ⑮ 念植樹会 2016/11/12 ⑯ 第70回 2016/10/8 ⑰ JR甲南山手駅前集合 ⑱ 準備体操 ⑲ 作業道作り 2017/11/4 ⑳ お花見ハイキングでの飲み物サービス 2017/4/8 ㉑ 第36回



2011/2/26 ⑥初期のネザサ狩り風景 2011/3/19 ⑦開花したガズミの花 2018/5/12 ⑧パナソニックインパルス・ライスボール優勝記念植樹 2016/1/9 ⑨第20回
 つ標柱 ⑩第100回 2018/12/1 ⑪2012年に植樹したオオシマサクラとコバノミツバツツジ 2019/4/13 ⑫フォレスター松寿10周年記念植樹会 2019/3/2 ⑬活動地から
 標識 ⑭⑮⑯オオシマサクラ・エドヒガン各2本を植樹 2012/3/18 ⑰第90回 2018/2/24 ⑱第30回 2013/5/12 ⑲受託地に出没したイノシシ ⑳松寿会40周年記
 60回 2016/1/9 ㉑第50回 2015/3/15 ㉒受託地を目指して ㉓昼食風景 ㉔魚屋(ととや)道の紅葉風景 ㉕甲南女子大学の皆さん 2015/3/14 ㉖第40回 2014/4/19

活動開始準備と初期活動の回想

篠島 益夫 (創業期代表世話役・神戸市須磨区)

活動開始準備と初回植樹までの様子を知る方も少なくなった今、記念誌を機会に取り上げて、後に続く皆様にお伝えする心積りで時系列で記述致しました。

2009年3月27日パナソニック電工松寿会阪神地区春の懇談会にて伊部正尋幹事より阪神地区の活動メニューを増やす為、活動希望アンケートの実施が発表されました。このアンケート結果から六甲山での植樹ボランティアなどを新たな活動とする方針が纏められ、7月には植樹ボランティアのリーダーについては登山や山作業経験の多い私に要請が有り引き受けました。

8月4日～9月15日伊部氏がかねて調査済みの神戸市の森林・公園緑地部所、県の農林部の担当者を訪問し、国の砂防事業の関係で多くの南斜面を管轄する国交省六甲砂防事務所を紹介され、同事務所が震災後に定めた「六甲山系グリーンベルト整備事業」のみんなの森づくり活動候補地の中から探す事となりました。同事務所の森の世話人支援事務局の赤井裕氏の案内で3ヶ所を伊部・篠島・中谷良三氏の3人で現地を調査登山、9月15日にはバス乗り継ぎが無く JR 甲南山手駅から約40分の東灘区森北町北部の「ととや地区 No.318」を活動地として決めました。

9月25日阪神地区秋の懇談会でこの活動開始について承認を得て、即刻六甲砂防事務所への登録申請書を作成して郵送。この申請において団体名を「フォレスター松寿」、活動目的は「防災の森づくり」、活動者は「松寿会員とその知人・地域の市民」としました。

10月23日六甲砂防事務所岡本敦所長名でフォレスター松寿宛の「森の世話人を証明する登録証」が私宛に到着し当該地区での活動が可能となりました。

11月21日篠島・中谷氏に加えて蓮井滋氏・高田誠一郎氏の4名で活動地に向かい、エリア境界の確認や2010年3月植樹を目標とする開伐エリアのマーキングなどを行った。この頃は活動地全体が人の背丈の2倍もあるネザサやニセアカシアとその倒木に覆われて登山道も確認しにくく、尾根筋にも拘わらず山林全体が薄暗かったので足場の確かな緩傾斜の地点(現在の中部休憩地周辺)を当面の活動地とすることにしました。

12月5日初回の活動例会案内をメールで配信、メンバーが集約されていないので広く阪神地区松寿会員に送信、エントリーを待つのも一桁の人数に留まりました。

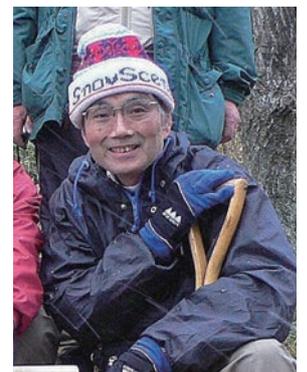
12月12日現地での活動の開始、道具は全て六甲砂防からの借り物、松寿会員8名+支援事務局3名の計11名、この初回参加の蓮井・高田・篠島・中谷氏は現在も継続参加しています。

2010年1月以降、松寿会の新規参加者は増え続けるが、全員が継続参加するとは限らずこの年は参加者が二桁に届いたのは1月の例会と3月の植樹会のみでした。2010年3月18～20日参加者15名で小型苗70本を現在の中部地区で初めて植樹を行いました。

松愛会の皆様・現役社員・地域の大学・高校・市民の参加、自前道具・動力作業機・保管倉庫・活動補助金・支援事務局の協力などが充実した現在とは全く相違した発足初期の活動でしたが、これが出発点となり現在があります。これからも新しい方々が新機軸を加えて森の成長と共に人が成長できるよう期待しております。



伊部 正尋さん



中谷 良三さん



当時の風景

10周年に寄せて



フォレスター松寿から「六甲山でつなげる！ BE ROKKO」へ……………

高田 誠一郎 (第2代代表世話役・神戸市東灘区)

初代代表世話役の篠島さんが松寿会阪神地区会員のアンケートから六甲山での植樹ボランティアとの主旨で立上げられたフォレスター松寿に即入会して早10年となりました。何故か2代目代表世話役を仰せつかり、任期の3年間で何とかこなす事が出来たのも世話役始め会員の皆さまのお陰と感謝しております。ライフサイクルから申しますと第1期5年の導入期から次の成長期であった様に思います。参加者の拡大を目指して、松寿会以外にアチコチ声掛けをおこなったり、色々な関連団体等とのつながりを求めたり致した次第です。その結果、「ほくら〜ととや森の世話人倶楽部」の発足や兵庫県が公募する神戸地域ビジョン委員会「六甲山グループ」につながった訳です。「六甲山でつなげる！ BE ROKKO」を旗印にもう少し頑張ろうとの思いです(笑)。



六甲山を美しく、六甲山で元気に！……………

橘 和宏 (会員・西宮市)

フォレスター松寿が10年の月日を歩む事が出来たとお聞きし、エッ!そんなになったのかと驚きとともに嬉しさがこみ上げてきました。篠島さんからこんなことを考えているのだからどうだろうと声をかけていただき、話が終わるや否や、これこそ松寿会がやる事では、是非やろうと賛同させていただいた事を思い出します。会員も少なく、金も、道具も、怪我に備えた保険も無く、それが今や国土交通省から感謝状を戴くグループになるとは。いつまで協力出来るか、取り敢えず作業地まで登れる体力が有る限り続けたいと思います。世話役の皆様有難うございます。



有難う フォレスター！……………

神原 克收 (会員・芦屋市)

10年前の発足当初篠島さんの趣意書に賛同し軽い気持ちで参加の意思表示をしましたが、正直ここまでくるとは思っていませんでした。歴代世話役さんの並々ならぬ熱意の賜物と強く敬意を表します。六甲山系グリーンベルト整備という高邁な活動に参加させていただく充実感と、今年80歳を迎えるこの歳で行事に参加出来る健康に恵まれたことに感謝の念で一杯です。この先体力が何年持つか判りませんが、人生100年時代の老後の過ごし方の一つのサンプルになれるよう可能な限り頑張って参加するつもりです。有難うフォレスター。



『フォレスター松寿』100年のロマン！……………

関谷 勇 (会員・伊丹市)

活動の例会は100回を越え10年間に亘り継続されてきました。まさにボランティア活動の鏡です。心から敬意を表する次第です。思えば2013年松愛会兵庫東西支部はフォレスター松寿の協賛メンバーとなり、2016年度の植樹祭に於いて、松寿会と松愛会が合同で「社会貢献・現場体験フォーラム」を開催しました。まさにワンパナを象徴する行事でありました。さて風光明媚な六甲山はその裏の顔として阪神大水害の危険をはらむ災害の山でもある。私は伊丹から六甲山を眺めて100年後の六甲山に「ヤマザクラ」が見事に咲き誇っている風景を思い浮かべては「ロマン」を感じているパナソニックOBであります。



「フォレスター松寿」活動 10 周年おめでとうございます!!

定久 俊之(会員・芦屋市)

10 年前、当時私は松寿会の役員として阪神地区の懇親会や同好会行事を通じて会員相互の交流と親睦の促進に注力しておりましたが、松寿会としてはそれだけでなくもっと地域社会に役立つ活動ができないかと考えていました。

そんな時に篠島さんから、地元六甲山の植樹に参加するボランティア活動の呼びかけがあり、有志会員 10 数名で「フォレスター松寿」がスタート、私も早速参加しました。

活動の場所は甲南の市街地から約 40 分の近いところでしたが、登山道が結構険しく、作業現場に着くまでが一仕事。しかも現地は長い間人の手が入らず荒れ放題、倒木がごろごろ転がり、背丈を超えるネザサや雑木が茂っており、これを当初は砂防事務所から借りた鎌、なた、鋸を使って切り開いて植樹できるように整備するという作業は気の遠くなりそうな厄介な難作業に思えました。活動は月 1 回のペースで 10 人前後が参加して、険しい斜面を転びそうになりながら雑木と格闘して刈り取り、倒木を片付け、登山道も整備するなど厳しい作業をこつこつと続け、少しずつ整備地が広がっていくのを見るのは喜びでした。

翌年から少しずつ植樹が始まり、苗木に名前が入った標識を立てたときは感動したものです。

あれからもう 10 年。世話役の皆さんを中心に熱心に活動が継続され、松寿会の他地区会員や現役社員、松愛会員や地元の大学生、地域住民へと幅広く参加者が広がり、植樹した本数も 1000 本近くとなり、まさに「継続は力なり」で着実な成果を上げられました。そしてその活動にたいして、地元六甲砂防事務所からの感謝状をいただき、更に国土交通大臣表彰を受賞するなど、各方面から高く評価されるに至ったことは、誠にご同慶の至りと、役員、会員の皆さんに心から感謝するとともに、名ばかりながら会員の一人として誇りを感じています。有難うございました。

今後は会員の高齢化に伴う活動の継続、次世代への引継ぎ等難問題を抱えての次の 10 年が始まることとなりますが、今後とも何卒よろしく願い申し上げます。



10 周年、おめでとうございます

富田 彰(会員・芦屋市)

2 年前に仲間に入れていただいたばかりですが、会員の皆さんが大変気持ちのよい方ばかりなので、居心地よく過ごしております。3 月の例会で、植樹履歴マップを見ながら 10 年間の成果を紹介していただきましたが、新入会員にとって、これまでの活動を理解する上で、大変参考になりました。そして、地道な努力が、着々と実を結んでいることに感銘を受けました。これだけの活動を組織するご苦労は大変なものと思いますが、素晴らしいチームワークで、毎回見事に運営されていることに頭が下がる思いです。これからもよろしく願いします。



森の世話人に

木田 周三(会員・芦屋市)

フォレスター松寿の活動には関学の同好会時代からの友人でローキング会の仲間でもある高田さんから誘われ 2016 年 9 月 3 日に初参加しました。

そして翌年の総会で会員として認められ 10 周年記念植樹会で活動歴も 34 回となりました。フォレスター松寿設立の趣旨も理解せぬまま、植樹・下草刈り・作業道整備などの作業をしてきましたが回を重ねるごとにネザサや雑木で覆われた山肌がきれいに变身し植樹した若木が少しずつ成長していく姿を目にすると活動の素晴らしさが実感できるようになり今日に至っております。早く「森の世話人」の一員になれるよう頑張ります。



登山道は私が作っているんだ！

高橋 和彦 (会員・神戸市東灘区)

東灘在住地元民で六甲の山を愛する市民として2016年3月から参加しています。最近では作業道や階段作りの主力となって頑張っています。最初に掛矢を任せられた時にはM氏、S氏のように上手く打ち込めず、インターネットで上手く打込むコツを探し当て、今ではそれなりに形になっているかと思っております。おかげさまで、手のひらの筋肉が異常に発達しました(笑)。以前、ハイキングコースを誰が作っているの?と思いましたが、私が作っているんだと自分を誇りに思うようになりました。これからも長くお付き合いさせていただきますので、よろしくお願い致します。

広報の取り組み

ホームページ

<http://forester.la.cocacn.jp/framepage1.html>

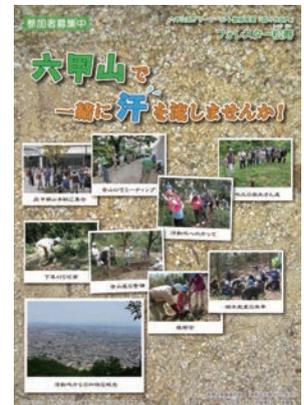


ブログ

<https://forestertotoyamichi.exblog.jp>



チラシ (A4 版)



パンフレット (A6 版)



ポスター (A3 版)



ロゴマーク・ロゴタイプの制定



10周年を機に、今後の会の活動のシンボルとなるロゴマーク・ロゴタイプを制定しました。

濃淡のある木のモチーフで、少ない数でも森の豊かさを表現しています。

赤い鳥は生命力を表すと言います。

森を再生するシンボル、フェニックスがモチーフです。



ドローンによりA・B・E地区を2019年3月に空撮したものです

この冊子は砂防ボランティア基金の助成金により作成しました
使用した写真などは全て会員が撮影したものです。無断での転載はお断りします
令和元年(2019年)5月1日 初版発行 発行責任者 蓮井 滋 編集責任者 木野村 章